

9年間で育成する児童生徒の姿の設定

に向けた取組の工夫

〔長沼町〕長沼中学校区の取組

○ 工夫のポイント

- ① 教育行政執行方針に基づく「目指す子ども像」の設定
- ② 小中一貫教育推進組織の整備と「目指す子ども像」の具体化
- ③ 「目指す子ども像」の実現に向けた取組

- ・ 学校名（児童生徒数）
長沼町立長沼小学校（413人）
長沼町立長沼中学校（234人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（令和4年4月）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設分離型（6－3）

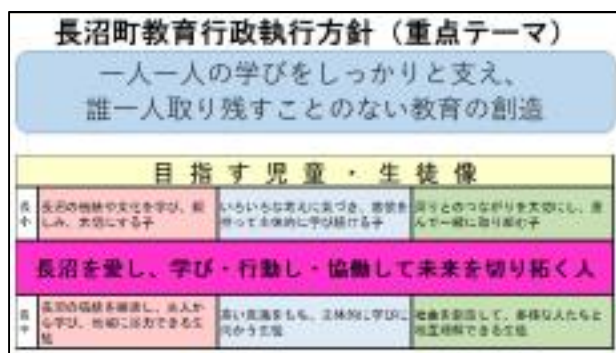


【長沼中学校】

取組の工夫の実際

① 教育行政執行方針に基づく「目指す子ども像」の設定

- ・ 小・中学校の管理職、主幹教諭、教務主任、事務職員、町教育委員会職員で構成する小中一貫教育推進会議で「目指す子ども像」を協議した。
- ・ 学校運営協議会で、地域の思いや願いを把握するとともに、教育上の課題を共有し、教育行政執行方針の重点テーマを踏まえた「目指す子ども像」を設定した。（図1）



【図1：重点テーマ及び目指す子ども像】

② 小中一貫教育推進組織の整備と「目指す子ども像」の具体化

- ・ 小・中学校間の連携した取組を推進するため、合同研修会を年に3回開催し、全教職員が、子どもの実態や指導の在り方について共有する環境を整備した。
- ・ 義務教育9年間を4つの段階に区切り、それぞれの段階の「目指す子ども像」を設定した。（図2）

実現のための指標		
キーワード「確かな学力」「自立と共生」「コミュニケーション」		
低学年	「読み」「書き」「計算」を基礎とし、知識・技能を身に付け、学習の意欲を高める。	「聞く」「話す」「書く」「読む」の基礎的な技能を身に付け、学習の意欲を高める。
中学年	「読み」「書き」「計算」を基礎とし、知識・技能を身に付け、学習の意欲を高める。	「聞く」「話す」「書く」「読む」の基礎的な技能を身に付け、学習の意欲を高める。
高学年	「読み」「書き」「計算」を基礎とし、知識・技能を身に付け、学習の意欲を高める。	「聞く」「話す」「書く」「読む」の基礎的な技能を身に付け、学習の意欲を高める。

【図2：段階別目指す子ども像】

③ 「目指す子ども像」の実現に向けた取組

- ・ 義務教育9年間を見通した教育課程を編成し、指導事項の系統性を踏まえた授業づくりを推進するため、各教科等における教科系統表を作成した。（図3）

令和4年度長沼町立小・中学校 算数・数学系統表【新学習指導要領対応版】		
小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年
【1年】 ●100までの数 ●100をこえる数（120程度） ●1位数の加法・減法 ●簡単な2位数の加法・減法 ●加減の場面を式に表す	【3年】 ●100までの数 ●100をこえる数（120程度） ●1位数の加法・減法 ●2位数の加法・減法 ●簡単な3位数の加法・減法 ●加減の場面を式に表す	【5年】 ●100までの数 ●100をこえる数（120程度） ●1位数の加法・減法 ●2位数の加法・減法 ●簡単な3位数の加法・減法 ●加減の場面を式に表す

【図3：教科系統表】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 合同研修会を開催し、教職員間で課題意識等を共有したことにより、小・中学校の円滑な接続に向けた取組を強化することができた。

○ 今後の取組

- ・ 「地域の子どもの地域で育てていく」という意識を高めるため、家庭・地域と「目指す子ども像」を共有するとともに、義務教育9年間を見据えた教育課程の編成・実施・改善に向けた取組の充実を図る必要がある。

9年間で育成する児童生徒の姿の設定

に向けた取組の工夫

〔仁木町〕仁木中学校区取組

○ 工夫のポイント

- ① 目指す子どもの姿の設定と共有
- ② 学習のきまりの統一
- ③ 乗り入れ指導の実施

- ・ 学校名（児童生徒数）
仁木町立仁木小学校（100人）
仁木町立仁木中学校（65人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校（令和8年4月）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設分離型（6－3）

取組の工夫の実際

① 目指す子どもの姿の設定と共有

- ・ 仁木地区学校運営協議会の意見を踏まえた上で、小中一貫教育推進委員会において仁木地区の目指す子どもの姿を検討し、小学校と中学校の全職員共通理解の下、設定した。（図1）
- ・ 小中合同研修会・一斉部会において、授業参観及び教育課程・学習指導・生徒指導の3部会に分かれて話し合いを行い、目指す子どもの姿の具体化を図った。（写真1）



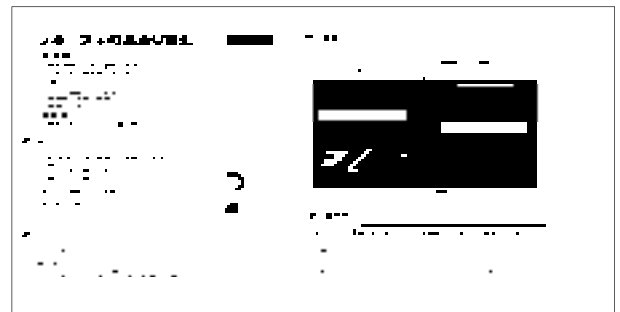
【図1：目指す子どもの姿】



【写真1：小中合同研修会】

② 学習のきまりの統一

- ・ 設定した目指す子どもの姿の実現に向けて、小学校と中学校で連携した取組を推進するため、児童生徒の話し方や聴き方、机上の準備などの学習のきまり「ニッキーズ+のあたりまえ」を作成した。（図2）



【図2：学習のきまりの一部（中学校用）】

③ 乗り入れ指導の実施

- ・ 中学校教員による乗り入れ指導を複数回実施し、児童が中学校教員による授業を体験することで中1ギャップの解消を図った。
- ・ 目指す子どもの姿を設定したことにより、教員が「学びを生かす」姿の具現化に向け、系統性を意識した授業づくりや指導計画の工夫・改善を行うきっかけとなった。（写真2）



【写真2：小学校への乗り入れ指導の様子】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 小中一貫教育推進委員会において、学校運営協議会の意見を踏まえた取組を行ったことにより、地域の願いを反映した9年間で育成する児童生徒の姿を設定することができた。

○ 今後の取組

- ・ 目指す子どもの姿の具現化を図っていくため、各種調査を活用し、分析をより一層進める必要がある。

9年間を通じた指導計画の作成

に向けた取組の工夫

〔知内町〕知内中学校区取組

○ 工夫のポイント

- ① 目指す子ども像の設定・共有
- ② 各組織を活用した年間指導計画の工夫・改善
- ③ 英語教育の充実に向けた乗り入れ指導の実施

- ・ 学校名（児童生徒数）
知内町立湯ノ里小学校（ 7 人）
知内町立知内小学校（119 人）
知内町立涌元小学校（ 19 人）
知内町立知内中学校（ 86 人）
- ・ 導入状況（導入時期）
小中一貫型小・中学校
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設分離型（6－3）



【知内町教育委員会】

取組の工夫の実際

① 目指す子ども像の設定・共有

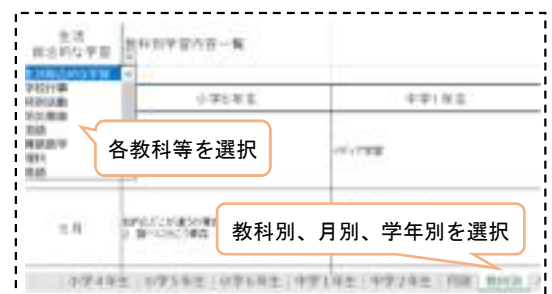
- ・ 町の校長会を中心に知内町学校教育中期推進計画に基づき「目指す子ども像」を設定するとともに、「知内町グランドデザイン」を作成した。（図1）
- ・ 夏季休業期間中に町内の全教職員を対象とした「知内町学びセミナー」において、「目指す子ども像」及び「知内町グランドデザイン」を共有した。



【図1：知内町グランドデザイン】

② 各組織を活用した年間指導計画の工夫・改善

- ・ 各学校が教育活動等を通して、日常的に各教科等の年間指導計画の工夫・改善を図ることができるよう、知内町教育研究所「学びの充実検討委員会」が中心となって「共有シート」を作成した。（図2）



【図2：年間指導計画の共有シート】

③ 英語教育の充実に向けた乗り入れ指導の実施

- ・ 町内の高等学校も参画する「知内町英語教育推進協議会」を中心に、定期的なアンケート調査を実施し、町内の学校の英語の授業における言語活動の取組状況を把握するとともに、小学校から高等学校までの系統的な知内町「CAN-DOリスト」を作成した。（図3）
- ・ 中学校の英語科担当教員とALTによる小学校への乗り入れ指導を行い、系統性を踏まえた学習指導の改善・充実を図った。

知内町英語教育推進協議会 Shiriuchi Can-Do statements		
学年	聞く (Listening)	読む (Reading)
小学校6年生	・ ゆっくりはっきり話されれば、簡単な指示を理解できたり、日常生活に関する身近で簡単な事柄について、短い話の概要を捉えたりすることができる。	・ 看板や表示に書かれた簡単な語句を十分に慣れ親しんだ簡単な文や基本的な表現を読んでその意味がわかる。
中学校1年生	・ 初歩的な語句や定型表現を理解し、英語での挨拶や数字などを聞き取ることができる。	・ アルファベットや符号がわかり、生活の初歩的な語句や簡単な文を理解できる。

【図3：知内町「CAN-DO リスト」】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 「知内町英語教育推進協議会」を中心に、小中高12年間の指導内容の系統性について共通理解を図ったことにより、各学校において、学校種間・学年間の学びのつながりを意識した学習指導を行うことができた。

○ 今後の取組

- ・ 地域学校協働本部と連携し、地域の人的・物的資源の活用などについて、小中9年間を贯通した年間指導計画の精選を行う必要がある。

9年間を通じた指導計画の作成

に向けた取組の工夫

〔帯広市〕大空学園義務教育学校の取組

○ 工夫のポイント

- ① レインボー・プログラムの策定に向けた取組
- ② 特色ある教育活動の実施
- ③ 検証・改善の取組

- ・ 学校名（学園生数）
帯広市立大空学園義務教育学校
前期課程（343人）
後期課程（153人）
- ・ 設置状況（設置時期）
義務教育学校（令和4年4月）
- ・ 施設形態（学年段階の区切り）
施設一体型（4－3－2）

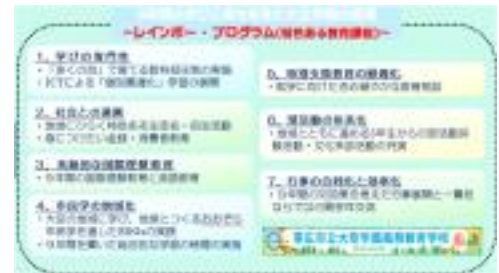


【大空学園義務教育学校】

取組の工夫の実際

① レインボー・プログラムの策定に向けた取組

- ・ 小中一貫教育に関する保護者・学園生へのアンケートの結果を全教職員で共有し、保護者や学園生の願いを踏まえ、レインボー・プログラム（9年間を見通した特色ある教育課程）の編成を行った。（図1）
- ・ 推進委員会を設立し、学校運営協議会等と連携して、レインボー・プログラムの地域への情報発信及び協働的な取組の推進を図った。



【図1：レインボー・プログラム】

② 特色ある教育活動の実施

- ・ 学習規律や学習過程及び家庭学習などの統一した取組を示した「大空スタンダード」を作成し、進級時のギャップの解消を図り、安心して学ぶことのできる環境を整えた。
- ・ 第3・4学年における一部教科担任制、第5学年以上における教科担任制を実施し、教員の専門性を生かした教科指導の充実を図った。
- ・ 第1・2学年における「英語遊びの時間」や第5学年以上における「TOEFL Primary」の実施により、英語教育の充実を図った。
- ・ 第5学年以上において、定期テストを実施し、学園生の学習の定着状況を適切に把握するとともに、学習指導の改善・充実を図った。



【写真1：入学式で第1学年を誘導する第9学年の様子】

③ 検証・改善の取組

- ・ 学園戦略運営会議において、定期的に今後の方向性や具体的な取組について協議したことにより、教育課程の検証・改善の促進につながった。
- ・ 学校運営協議会において、学園生、保護者、教職員による学校評価アンケートの結果を活用して、取組の検証及び改善



【写真2：学校運営協議会による協議の様子】

成果と今後の取組

○ 成果

- ・ 令和4年度全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙調査において、家庭学習時間が「平日1時間以下」と回答した学園生の割合が1.2%減少するとともに、「平日全く勉強しない」と回答した学園生の割合が33.8%減少した。
- ・ 令和4年度学校評価アンケートにおいて、小中一貫教育の取組に7割以上の肯定的な回答が得られた。（学園生：78.9%、保護者：70.2%、教職員：73.4%）

○ 今後の取組

- ・ 9年間を見通した教育課程の一層の充実に向けて、地域人材の活用や教職員のカリキュラムに係る共通理解及び協働体制の整備を図る必要がある。